

ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップの試み

松本 高志

(阿南工業高等専門学校)

1. はじめに

阿南工業高等専門学校(以下、阿南高専という)では、平成21年から主体的な教育改善活動として、ティーチング・ポートフォリオ(以下、TPという)に着目し、平成22年3月に国立高専では初めてTP作成ワークショップを開催した。また、栗田氏の提案した日本に適したワークショップ⁽¹⁾をさらに高等専門学校(以下、高専という)の教員に適した形式に修正し、ワークショップ開催の実践を積み重ねてきた。

ワークショップ参加者からはワークショップ参加直後において非常に高い評価を得られたが、一過性に終わらず継続的に教育改善へ活用されることを期待している。そこで、初めて作成ワークショップを開催して以来3年が経過したことから、更新ワークショップを企画し開催した。

本稿では更新ワークショップの実践成果と明らかになった課題について報告する。

2. ポートフォリオ作成ワークショップ実績

阿南高専では、SPODとの共同開催や他高専におけるTP作成ワークショップ開催支援を含め、18回のワークショップを主体的に開催した。これまでの実績を表1に示す。このうち、7回は他高専におけるワークショップ開催を支援したものである。筆者はこれらの他、いくつかの他機関開催のワークショップへメンターとして参加している。ここで他高専において主体的に開催支援したワークショップには本校教員は参加していないが、これまで、本校の教員については常勤教員の80%以上がワークショップに参加し、TPを作成するに至っている。そして、これまで約120名のワークショップ参加者を得ている。

平成24年3月、阿南高専では初めてアカデミック・ポートフォリオ(以下、APという)開発

表1 ワークショップの開催状況

	日程	参加者数 (阿南高専内数)	会場
第1回	2010年3月	7(7)	阿南
第2回	7月	7(4)	阿南
第3回	12月	14(5)	阿南
第4回	2011年3月	10(3)	阿南
第5回	9月	9(9)	阿南
第6回	11月	7(0)	他高専
第7回	12月	9(3)	愛媛大学
第8回	2012年3月	12(9)	阿南
第9回	3月	5(0)	他高専
第10回	7月	5(0)	他高専
第11回	9月	7(5)	阿南
第12回	11月	2(0)	他高専
第13回	12月	6(4)	愛媛大学
第14回	12月	3(0)	他高専
第15回	2013年3月	7(3)	阿南
第16回	3月	6(0)	他高専
第17回	3月	4(0)	他高専
第18回	11月	2(0)	愛媛大学

ワークショップを開催した⁽²⁾。これまで3回開催し、AP作成者は5名となっている。これらのワークショップは既存のTPワークショップと同時開催とした。この結果、メンターはAPとTPを混在させて担当することができ少人数のメンターで開催することができた。APは教育活動、研究活動、社会サービス活動で構成され、2日半のワークショップでは作成が難しいため既TP作成者を対象としている。そして、AP全体のページ数に制限があるため、教育活動はTPを圧縮して活用する。したがって、AP作成時にはTPの更新作業を伴う。TP更新にはAP作成とTPの直接更新の2種類が考えられる。

3. 更新ワークショップについて

TP 作成時に明らかにした教育理念は簡単に变化するものではないが、担当授業、授業評価アンケート、教育実践の成果等は変化するものである。また、TP 作成時に計画した短期目標は達成されれば教育の成果へ移動し、新たな短期目標を計画することができる。TP の更新は個人的にできるが、多くの教員は多忙な中で TP 更新作業は後回しとなり、実施されないことが容易に想像できる。そこで、更新ワークショップを企画し、TP 更新意欲はあるものの個人では取り組みにくい者が集まり協同して作業できる場を提供した。日程は、参加しやすいと考えられる夏休み休業期間の平日 9:00 から 16:00 とした。また、事前作業として参加者は自分の TP を読み返し、チェックシートに記載する。ワークショップ当日は次の手順で実施した。

- (1) 午前中、TP の復習を兼ねたガイダンス
- (2) 参加者がペアに分かれ、個別の部屋で相手の TP を読み、ペア・メンタリング形式で情報共有と意見交換
- (3) 参加者全員で昼食を食べながら意見交換
- (4) 15:00 まで更新作業に取り組み、15:00 から短時間の更新成果発表会を実施
- (5) 修了式で修了証を授与

TP 作成ワークショップ時のようなメンターが個別に担当するのではなく、ペア・メンタリングによって効率的に大人数にも対応できる仕組みとなっている。

4. 成果と課題

今回初めて開催した更新ワークショップの参加者は他機関からの参加者1名を含む8名だった。多くは阿南高専の TP 作成ワークショップ開催初年度において作成した教員であり、約3年が経過している。阿南高専ではこれらの他、既に AP を5名が作成しており、同時に TP を更新していると言える。初年度開催の TP ワークショップ参加者は特に教育改善に意識の高い教員であり、更新ワークショップも積極的に参加している。

参加者からの更新ワークショップのアンケー

ト結果からワークショップ全体的には満足している。満足度が低い項目は実際の更新にかかる時間が短かったことである午前中のペア・メンタリングで更新作業の概要を把握できるが、午後から最後のプレゼンテーション準備も含め2時間しか取れなかったためである。これは参加しやすい時間設定をしたためであるが、プログラム全体における時間配分の再検討が必要である。また、ペア・メンタリングについて、TP 作成ワークショップにおけるメンター経験者と未経験者では、相手の TP を読み取るスキルに差があり、未経験者にとっては難しかった、との意見があった。これは、ペアメンタリングのポイントについて手引きを作って配布することによって解消できると考える。また、この結果を踏まえ、メンター経験者は自身の TP 更新においてもその経験を生かせることがわかった。また、3年分の更新作業は労力が大きいと、もっと短いスパンで更新すべきとの意見が多かった。あまり頻度の高い更新作業は敬遠されるとの推定から3年後の更新を提案したものの意外な意見であった。担当授業は年度ごとに変ったり、新たな授業方法に取り組んだりすることから、毎年の軽微な更新を継続することが継続した効果的な TP 活用につながると考えられる。

5. おわりに

継続的な TP の活用を目的とし TP 更新ワークショップを初めて開催した結果、様々な課題が明らかになった。これらを踏まえ、今後の更新ワークショップを改善していきたい。

参考文献

- (1) 独立行政法人 大学評価・学位授与機構：日本におけるティーチング・ポートフォリオの可能性と課題－ワークショップから得られた知見と展望－，評価結果を教育研究の質の改善・向上に結びつける活動に関する調査研究会報告書(2009)
- (2) ピーター・セルディン，J. エリザベス・ミラー，大学評価・学位授与機構監訳・栗田佳代子訳：「アカデミック・ポートフォリオ」，玉川大学出版部(2009)